

## 防災ニュース 第20号



### 台風に備えよう!! (2)

～ 防災・減災のため正しい知識を ～

皆様こんにちは。9月8日から9日にかけて台風13号が東海道沖を北上し、線状降水帯による大雨で静岡県から福島県の太平洋側に大きな被害をもたらしました。これらの地域では、観測史上第1位の1時間降水量を観測した地点もありました。

台風が発生し日本に接近すると、各地の気象台等では台風に関する情報を発表し、新聞やテレビ・ラジオが一斉にその動きを伝えます。私たちはそれらの情報を有効に利用し災害を防止・軽減するために、台風に関する正しい知識を身につけましょう。

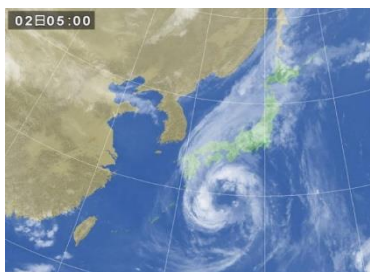
(出典：気象庁ホームページ)

#### 【 台風に伴う風の特徴 】 (前号の続き)

台風の風は陸上の地形の影響を受け、入り江や海峡、岬、谷筋、山の尾根などでは風が強く吹きます。また建物があるとビル風と呼ばれる強風や乱流が発生します。道路上では橋の上やトンネルの出口であられるなど、局地的に風が強くなることもあります。

台風が接近すると、沖縄、九州、関東から四国の太平洋側などでは竜巻が発生することがあります。また、台風が日本海に進んだ場合には、台風に向かって南寄りの風が山を越えて日本海側に吹き降ります。その際、気温が高く乾燥した風が山の斜面を吹き降りるフェーン現象が発生するため、火災が発生した場合は延焼しやすくなったりします。

また、台風の接近に伴い進路によって風向きの変化が異なります。ある地点の西側または北側を台風の中心が通過する場合は時計回りに風向きが変わります。逆に東側や南側を通過する場合は反時計回りに変化します。周りに建物などがあると、必ずしも風向きがこのようにはっきり変化するとは限りませんが、風向きの変化は台風に備える際の参考になります。



#### 【 台風に伴う雨の特徴 】

台風は、強い風とともに大雨を伴います。台風は積乱雲が集まったもので、雨を広い範囲に長時間にわたって降らせます。

台風は、垂直に発達した積乱雲が眼の周りを壁のように取り巻いており、そこでは猛烈な暴風雨となっています。

この眼の壁のすぐ外は濃密な積乱雲が占め、激しい雨が連続的に降っています。更に外側の200～600kmの所には帯状の降雨帯があり、断続的に激しい雨が降ったり、時には竜巻が発生することもあります。これらの降雨帯は台風の回りに渦を巻くように存在しています。

また、日本付近に前線が停滞していると、台風から流れ込む暖かく湿った空気が前線の活動を活発化させ、大雨となることがあります。

雨による大きな被害をもたらした台風の多くは、この前線の影響が加わっています。和歌山県に上陸した平成2年台風19号は西日本の太平洋側で総降水量600～1,100mmの大雨を降らせました。



九州に上陸した昭和51年台風17号は、台風が南の海上にあった時から西日本に停滞していた前線の活動を活発化させ、台風がゆっくりと北上したこともあって九州に上陸するまでの6日間にわたって各地に雨を降らせました。徳島県木頭村では1日だけで1,114mmの雨を降らせ、当時の日本記録となりました。また、木頭村での総降雨量は2,781mmと、東京の2年分に相当する大量の雨となりました。このように大量の雨を数日のうちに降らせたため、1都1道2府41県とほぼ、日本全域で被害が発生し、死者・行方不明者171人、住家の全半壊・流失5,343棟、住家の浸水534,495棟（消防白書による）という甚大な被害が発生しました。

台風がもたらす雨は、台風自身の雨の他に、このように前線の活動を活発化して降る雨もあることを忘れてはいけません。

### 【 大雨の影響 】

台風がもたらす雨は短期間（数時間から数日）の内に広く大量に降るため、河川が増水したり堤防が決壊したりして水害（浸水や洪水）が起こることがあります。近年は治水事業が進み、大河川の氾濫は少なくはなっていますが、都市部では周辺地域の開発が進んで保水（遊水）機能が低下していることもあり、水害に占める都市部の被害の割合が増えています。



また、雨により山や崖が崩れたり、土石流の発生などの土砂災害も起こります。雨による土砂災害の犠牲者が自然災害による死者数（地震・津波を除く）の中で大きな割合を占めるようになってきました。近年の宅地開発は都市郊外の丘陵地や急傾斜地を利用することが多く、新たな崖が形成されることが土砂災害による被害を大きくしています。

更に、近年、アウトレジャーが盛んになり、キャンプをする人々が増えていますが、上流域に降った雨による増水で川の中州などに取り残されて救助を求める事案も増えています。雨だけでなく、川の増水に対しても油断はできません。

### 【 台風の一生 】

台風の一生は、発生期、発達期、最盛期、衰弱期の4段階に大別できます。日本に接近する台風は主に最盛期と衰弱期のものです。

最盛期では中心気圧が最も下がり、最大風速が最も強い期間を言います。台風の北上に伴い、中心付近の風速は徐々に弱まる傾向に入りますが、強い風の範囲は逆に広がります。日本に接近すると海からの水蒸気の供給が減少し、衰弱して熱帯低気圧や温帯低気圧に変わりますが、いずれの場合も消滅するまで油断できません。

以 上